

究所で行った。対象は1980年12月より1984年4月までに HBe 抗原陽性の母親から出生した児とした。分娩及び児の追跡は横浜市愛児センターで行った。処置方法は臍帯血にて HBs 抗原抗体共に陰性の児に HBIG F(ab')₂ 150mg を静注, 24時間後 HBIG を筋注し, 抗体価を4倍以上に保持する。こうして垂直感染を防止しつつ, 毎月 HBs 抗原抗体を追跡し, 生後2カ月に HBIG を追加, 生後3カ月よりワクチンを筋注し水平感染を防禦しながら児に能動免疫を獲得させる。

成績: 対象児は102名あつたがプログラムは101名に施行された。臍帯血により胎内感染とされた児2名。1カ月以内にキャリア化した児2名。一過性に HBs 抗原が出現したが抗体を獲得した児1名, 追跡から脱落した者3名, 追跡継続中の97例中95例が感染防止に成功している。1年以上追跡中の47名は全員能動免疫を獲得し, しかも HBc 抗体の上昇を認めなかった。感染防禦率は97.9%であつた。

独創点: グロブリンとワクチンを併用し垂直感染と水平感染を防止し新たなキャリアの発生をなくすことに成功した。グロブリンの Fc 部分を取り過ぎアナフィラキシーの副作用を防止した。HBc 抗体の上昇が認められないことは, キャリア状態からくる慢性肝炎, 肝硬変, 肝癌の発生をも防禦し得たと言える。

質問 (韓国) 李 東熙

新生児の HBs 抗原抗体を検査する場合, 臍帯血では溶血のため検査成績が正確でないから必ず新生児の静脈血を使つて検査するようにとの文献を何回か見て居ります。

これに対して先生の御意見は。

回答 (横浜愛児センター) 鈴木 敏旦

胎内感染の有無をできるだけ早く判定したい事と, なるべく多くの血液を保存したい点から, 母体血の混入をさせて臍帯から採血していますが, 現在のところ溶血によつて判定に影響した例はありません。

質問 (都立豊島病院) 川田 晃

① キャリア化した症例は全例胎内感染と考えられますか?

② 母体の DNA Polymelase は測定してありますか? それとキャリア化との関連はいかがでしょうか。

回答 (横浜愛児センター) 鈴木 敏旦

① キャリア化は4例のうち2例は臍帯血で HBs 陽性なので胎内感染と診断できる。1カ月以内にキャリア化した2例については, 初回の HBIG の量が少ない

ためにブロックできなかつたかもしれないが, 潜伏期間を考慮すればやはり胎内感染と言えると思う。

② DNA Polymelase は14~10480cpm であつた。キャリア化した例はほとんど3000cpm 付近で, DNA polymelase が高いからと言って, キャリア化するわけではない。

質問 (新潟大) 吉谷 徳夫

① 胎内感染例, 一過性 HBs 抗原陽性例において, 肝機能検査上特徴的所見はみられたかどうか。

② 予後 follow up 期間について, どのくらいの期間観察すべきか。

回答 (横浜愛児センター) 鈴木 敏旦

① 肝機能には特に問題となる所見はありません。

② 1年間は1カ月毎, その後は症例により3~6カ月毎としてよいように思う。最終的には多くの論文に示されるように3歳までとしたい。

15. ヒト胎盤組織における抗ウイルス活性

(東北大)

中嶋 正明, 岡村 州博, 山田 和徳

古川 和美, 鈴木 雅洲

ヒト胎盤組織中の抗ウイルス活性を測定し, さらにこの抗ウイルス活性物質の物性を若干検討した。

方法: ヒト胎盤から卵膜部分を取り除き, 洗滌をくり返した後にホモジナイズし, さらに超遠心を加えて可溶画分を得た。抗ウイルス活性測定に際しては蛋白濃度を全て10mg/ml として使用した。さらに可溶画分に対し硫酸分画を行い抗ウイルス活性物質を部分精製した後, 熱処理, 酸処理を加えて物性を検討した。抗ウイルス活性はヒト羊膜由来細胞と牛口内炎ウイルスを用い, 96穴プレートを使用した50%プラーク抑制法により測定した。

結果: 妊娠初期絨毛の可溶画分中に4~8U/ml の抗ウイルス活性が認められ, さらにほぼ全妊娠期間を通して胎盤可溶画分中に抗ウイルス活性が存在した。その価は4~16U/ml 程度であつた。合併症を持つた妊娠についてみると, IUGR 妊娠では妊娠中毒症の有無にかかわらず殆ど抗ウイルス活性の認められないものから8U/ml 程度の活性が認められるものまであり, 正常妊娠群とほぼ同様の価であつた。また胎児の中樞神経系の奇形を伴つたものは抗ウイルス活性が高く16~32U/ml を示した。さらに妊娠中に何らかの感染症の存在した場合においても32U/ml と高値を示した。

この可溶画分を硫酸分画したところ, 抗ウイルス活

性は30~50%の画分にかなり回収された。また56°C 30分の熱処理, PH 2 overnightの酸処理においては残存活性は50~100%であった。

以上から, 全妊娠期間を通して胎盤可溶画分中に抗ウイルス活性が認められること, 胎児の中枢神経系の奇形を伴った妊娠及び妊娠中に何らかの感染の存在したものは, 正常妊娠に比して抗ウイルス活性が高いことがわかった。

質問 (金沢医大) 杉浦 幸一

1. CNS malformationにおいて抗ウイルス活性が高いという data から virus 感染との因果関係をお考えでしょうか?

2. 今回の結果から, latent infection に関する speculation をお聞かせ下さい。

回答 (東北大) 中嶋 正明

CNS 奇形の場合, ウイルス感染が存在しているの可否かについては現在の段階では明確には答えられませんが, latent infection ということもあり可能性はあると思います。今回のデータからもその可能性が示唆されます。

16. 抗ウイルス剤アシクロビルを用いたヘルペス感染症の新しい治療法

(大阪・早川クリニック)

早川 謙一, 早川 清, 南 八重子

(大阪大・微研)

奥平 吉雄, 松井 義明, 沢田 益臣

単純ヘルペスウイルス (HSV) による性器感染症は STD の一つとして昨年から大都市において爆発的な流行の兆しをみせている。また HSV と子宮頸癌発症との関連性も否定出来ない。HSV 感染症の有効な治療法の確立が急がれている。

目的: 最近開発された抗ウイルス剤9-(2-hydroxyethoxymethyl) guanine (アシクロビル, Acyclovir) を性器 HSV 感染症例に投与し, 臨床的に有効な治療法であるか否かを検討した。

方法: 過去1年間に当科外来で診断した性器 HSV 感染症64例 (男性配偶者も含む) の臨床経過を分析し初発急性型と再発型に分類し, これを対照群とした。14例 (急性型11例, 再発型3例) にアシクロビル250mg~500mg/日 (静注) 5日間連続投与を行った。観察項目は発熱, だるさ, 疼痛, 水疱及び潰瘍, 所属リンパ節腫大の消長で, とくに局所症状は経時的写真撮影を行った。ウイルス分離はヒト胎児肺細胞を用い, 患部, 擦過細胞診により多核巨細胞の観察, 血清中和抗体価

の測定を参考とした。投与前後に血液, 血液化学, 肝機能, 尿検査を行った。

成績: 初発急性型 (11例) ではアシクロビル投与により著効を示したものが多く, 投与開始24~48時間後に著しい疼痛の緩和が認められ, 新たな水疱形成が完全に抑制されるとともに潰瘍面の乾燥, 痂皮形成が速かにみとめられた。対照群 (主として硝酸銀焼灼と亜鉛華塗布, 抗生剤投与) との各臨床観察項目の消失日数の比較では, アシクロビル投与群の各項目消失平均日数は, 疼痛3.3日 (対照群8.7日), 潰瘍4.9日 (同8.5日), リンパ節腫大5.6日 (同13.7日) であり, 各項目の消失日数が1/2乃至1/3に短縮された。再発型では, 急性型に比べ症状も軽く発症期間も短いため症状改善効果は急性型ほど明瞭ではなかったが再発間隔 (寛解期間) の延長がみとめられた。今回の投与方法では, 認むべき副作用は観察されなかった。

独創点: HSV 感染症の臨床経過を詳細に分析し, アシクロビルが HSV 感染症に対する最も有効な治療法の一つであることを確認した。

質問 (佐賀医大) 岩坂 剛

欧米での報告では再発予防に効果があるということですが, この目的での投与の御経験がありましたらお聞かせ下さい。

回答 (大阪・早川クリニック) 早川 謙一

再発防止に関しては, 現在尚検討中であるが3例の再発をくり返す患者に対して250mg/日5日間投与により, 再発間隔の延長 (寛解期間の延長) がみとめられ, 再発予防にもある程度効果があるものと思われる。

17. 正常妊娠の血液凝固能について一脂質代謝面からの検討一

(帝京大・溝口病院)

布施 養慈, 柿沼 三郎, 細野 幸多

(同・内科) 布施 梢

妊娠時とくに妊娠後期の血液性状は, 凝固亢進・線溶抑制状態にあることは周知の事実である。しかしながら, これらの原因については種々の報告はあるものの不明の点も多い。また, 妊娠時には高脂血症の状態もみられることより, 今回, 演者らは脂質代謝の面から, 妊娠時の血液凝固・線溶能の検討を行った。

対象は正常妊娠前期36例, 後期59例であり, さらに妊娠後期を total cholesterol 250mg/dl 以下の非高脂血症群35例および total cholesterol 250mg/dl 以上の高脂血症群24例に分類した。

結果は次のごとくである。